

日中歴史研究センター旧蔵書について

「日中歴史研究センター」は、1994年8月31日の村山内閣総理大臣の談話に基づき、戦後50周年に当たる1995年度を初年度とする政府の10カ年計画として発足した「平和友好交流計画」に基づき設立された（外務省所轄）。このセンターでは、近現代の日中関係史に関する認識の違いを埋めることを目的として日中両国における歴史研究に対して支援を行なったが、その一環として1995年から2004年にかけて約4万点の図書・マイクロ・映像資料を収集・蓄積して、同センター資料室において広く研究者等の閲覧に供していた。2004年度における事業終了にともない、すべての資料は2006年2月に国際日本文化研究センターに移管された。

蔵書の構成

日中関係日本語資料 約 5,000 点
日中戦争関係中国語資料 約 7,000 点
統計・年鑑・地方誌等中国語資料 約 14,000 点
近代中国資料叢刊 約 3,300 点
マイクロ等非図書資料 約 6,000 点
中国文化部寄贈映像資料 約 1,000 点

蔵書の特徴

統計・年鑑・地方誌が充実した資料群を形成していること
国勢調査資料が豊富であること
「文史資料」と呼ばれる活動家（非・中国共産黨員を含む）の回想録を多く有すること